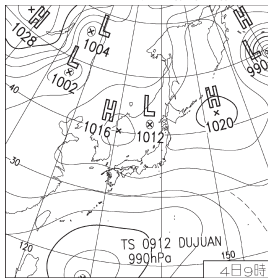


日々の天気図

— No. 92

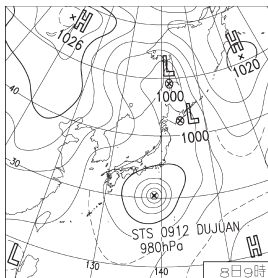
2009年9月

- ・沖縄・奄美で記録的な高温。1946年の統計開始以降、9月としては最も気温が高かった。
- ・19日、台風第14号により東京都父島で最大瞬間風速42.9 m/s。
- ・28日～30日、西日本太平洋側を中心に大雨。三重県熊野新鹿で92 mmの1時間降水量と350 mmの日降水量。(気象庁予報部予報課)



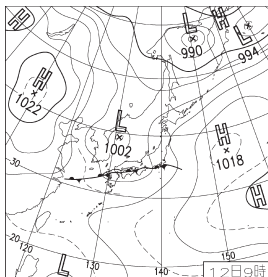
4日(金)台風第12号発生

上空寒気の影響で四国・中国～北陸・甲信の所々で激しい雷雨。長野県木曾町開田高原で41 mm/1h。南西諸島～九州南部は台風周辺の湿った空気が流れ込み所々でわか雨。



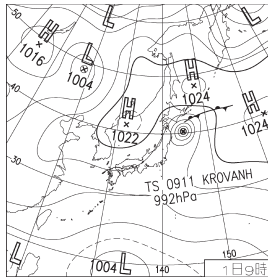
8日(火)まだまだ暑い西日本

台風第12号は八丈島の南海上で東北東に進む。大陸から高気圧が張り出し、西～東日本の太平洋側を中心に晴れ間が広がり、昇温。宮崎県西米良村で最高気温36.4℃。



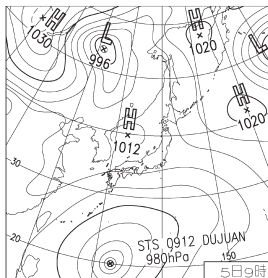
12日(土)全国的に雨

前線や低気圧の影響で全国的に雨。東京都千代田区大手町の最高気温23.3℃は、10月上旬並。南西諸島では厳しい残暑。台風第13号はベトナムで熱帯低気圧へ。



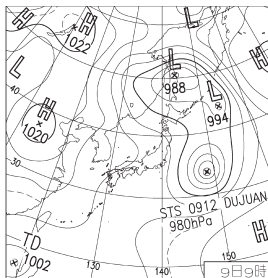
1日(火)関東は夏の暑さ戻る

西日本や東日本は日中晴れ。関東～東北は前日の肌寒さ解消して関東の最高気温は真夏並。台風第11号は北海道太平洋側に強い雨と風をもたらした後千島近海で温帯低気圧に。



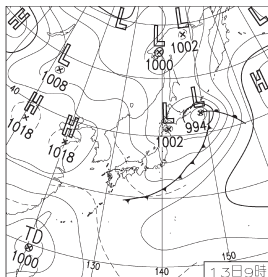
5日(土)大型の台風第12号北上

北海道は気圧の谷の影響で曇りや雨。その他は日本海側の一部を除いて概ね晴れ。西日本では厳しい残暑。熊本県菊池市では連日の猛暑日で最高気温は35.4℃。午後所々でわか雨。



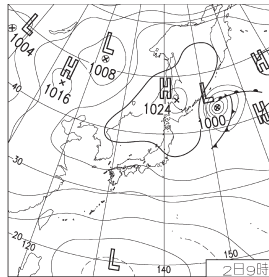
9日(水)北海道で雷雨

大陸から高気圧が張り出し、関東を除き全国的に晴れたが、上空に寒気が流れ込んだ東日本や北日本では所々でわか雨。台風第12号は日本の東海上で東北東に進む。



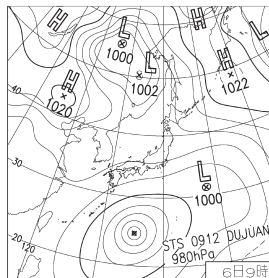
13日(日)台風第14号発生

大陸から高気圧が張り出し、西～東日本では晴れ間が広がり、南西諸島では今日も厳しい残暑。北日本は低気圧が通過し、雨。台風第14号がマリアナ諸島近海で発生し西へ進む。



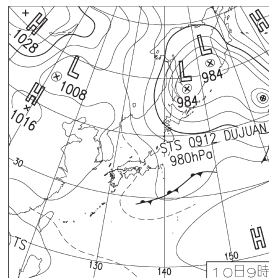
2日(水)西日本 厳しい残暑

オホーツク海の高気圧から流れ込む湿った北東風の影響で東海～東北の太平洋側では曇り。その他は概ね晴れ。西日本では残暑厳しく熊本市で最高気温35.8℃。



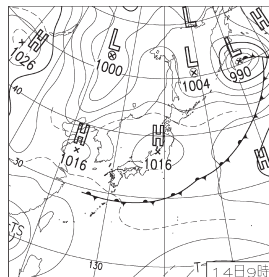
6日(日)全国的に行楽日和

北海道で曇りや雨。四国の山沿いの一部でわか雨があった他は、高気圧に覆われて全国的に晴れ。西日本は残暑が続き、熊本県人吉市で最高気温35.2℃。宇都宮市でモズの初鳴。



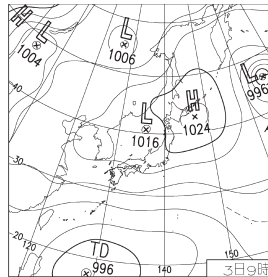
10日(木)西日本にも秋の気配

最低気温がほぼ全国的に平年より低く、残暑の厳しかった西日本でも10月上旬並に。台風第12号は日本のはるか東海上で温帯低気圧へ。南シナ海で台風第13号発生。



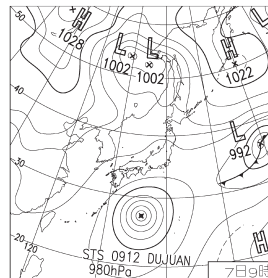
14日(月)台風第15号発生

本州～北海道は高気圧に覆われ概ね晴れたが、西日本では気圧の谷の接近で午後から次第に曇ってわか雨の所も。台風第15号が南シナ海で発生し西へ進む。



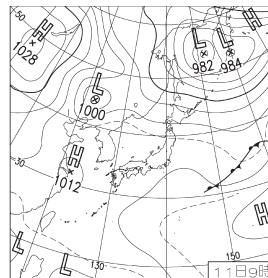
3日(木)西日本太平洋側で雨

暖かく湿った空気が流れ込んだ西日本の太平洋側で大雨。宮崎県高鍋で59.5 mm/1h。岐阜県～長野県では気圧の谷の影響で雨。関東～東北の太平洋側では引き続き曇り。



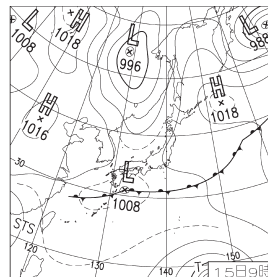
7日(月)小笠原諸島で大しけ

台風第12号が日本の南を北上し小笠原諸島で大しけ。気圧の谷の影響で北海道では曇りや雨。その他は概ね晴れ。九州では厳しい残暑。東京でススキ開花。



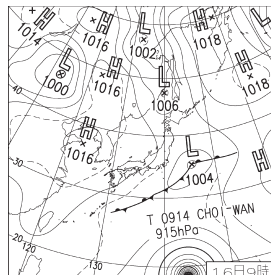
11日(金)日中は穏やかな晴れ

高気圧に覆われ、日中は北陸や北日本の一部で雨の他は穏やかな晴れ。夜には西から前線が接近し、山陰から次第に雨。高知市、甲府市でモズ初鳴。

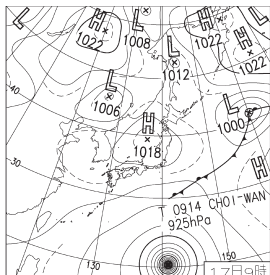


15日(火)14号 猛烈な台風へ

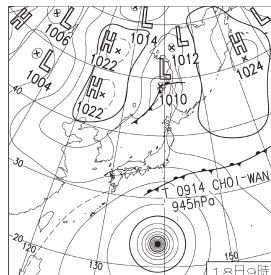
日本付近は気圧の谷となり全国的に雲が多く西から雨が広がった。晴れ間が覗いたのは日中の北海道と東北の一部だけ。明け方に前線近傍の鹿児島県十島村中之島で48 mm/1h。



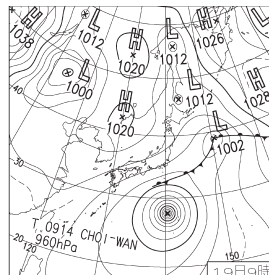
16日(水)西~東日本 秋晴れ戻る
寒気を伴った気圧の谷が北日本を通過。北海道網走市で観測史上1位となる38.5 mm/1hの雨。帯広市で10ミリのひょう。西~東日本はさわやかな晴れ。



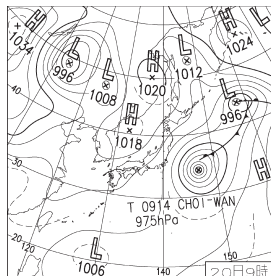
17日(木)全国的に秋晴れ
北日本を高気圧が移動し全国的に晴れ。沖縄~九州で真夏日。沖縄県石垣市登野城で最高気温33.2℃。台風第14号の影響で南西諸島~東日本の太平洋側でうねりを伴った高波。



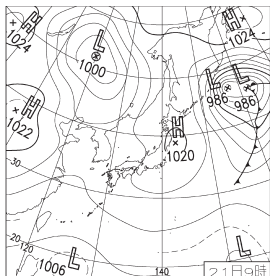
18日(金)台風第14号北上
台風は父島の南西の海上を北上。小笠原諸島~伊豆諸島では高い波。本州の南海上に停滞する前線の影響で、太平洋側を中心に雲が広がり、所々で雨。



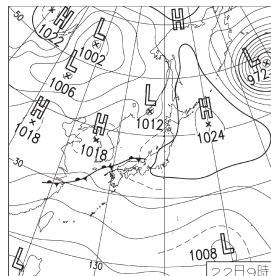
19日(土)小笠原諸島は暴風域
台風は小笠原諸島付近を北東に進む。東京都父島では最大瞬間風速42.9 m/sを観測。北海道の一部と伊豆諸島南部で雨のほか、日本海の高気圧に覆われうす曇りや晴れ。



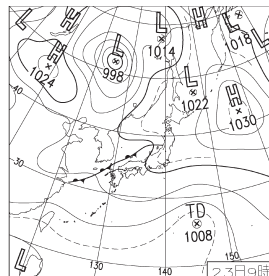
20日(日)秋晴れの彼岸入り
北海道のオホーツク海側で曇りや雨の他は、さわやかな天気。最高気温は関東、甲信が9月上旬並。北海道の一部で10月上旬並の他はほぼ平常並。台風第14号は温帯低気圧へ。



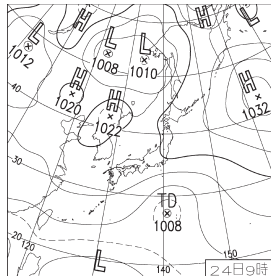
21日(月)旭川で初霜
高気圧は日本の東海上に移動し、西~東日本太平洋側は曇り。北海道内陸部はこの秋初めて氷点下の冷え込みで、上川町栄町で最低気温-1.3℃。旭川市で平常より16日早い初霜。



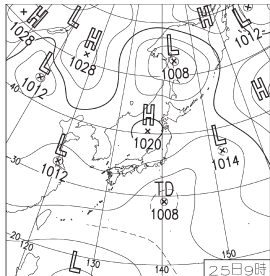
22日(火)全国的に曇り
前線や低気圧の影響で全国的に曇り。西日本や北日本の所々で雨となり京都府京丹後市間人で30.5 mm/1hの激しい雨。沖縄は晴れて残暑厳しく沖縄県多良間空港で最高気温33.1℃。



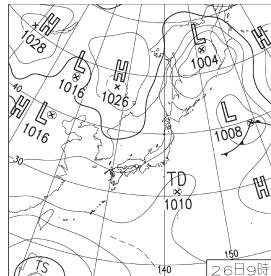
23日(水)雲の多い連休最終日
高気圧に覆われた北海道は晴れ。その他は前線の影響で雲が広がり、東北では雨。南西諸島は晴れて今日も厳しい残暑。沖縄県多良間空港で最高気温34.1℃。



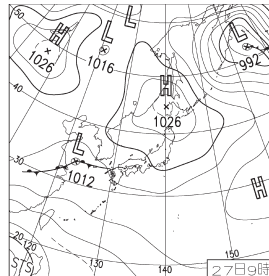
24日(木)熱帯低気圧北上
北海道は気圧の谷の影響で所々で雨。その他は高気圧に覆われ概ね晴れ。東日本の太平洋側では小笠原諸島付近の熱帯低気圧の影響で一時的に雲が広がった。



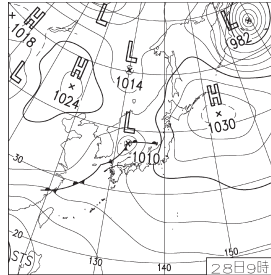
25日(金)全国的に秋晴れ
高気圧に覆われ全国的に晴れ。西日本各地で真夏日。高知県四万十市江川崎で最高気温33.5℃。小笠原諸島付近の熱帯低気圧は動き遅く、フィリピンの東海上の熱帯低気圧は西へ。



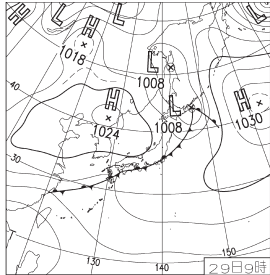
26日(土)台風第16号発生
上空に寒気を伴った気圧の谷が日本付近を通過。北海道は未明に雨。その他の地方は概ね晴れたが、山沿いを中心に所々で雨。フィリピン付近で台風第16号発生。



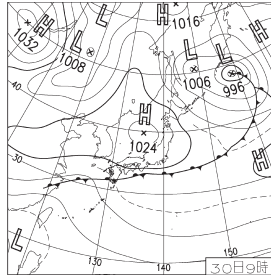
27日(日)天気は西から下り坂
湿った空気が流れ込んだ九州~四国の太平洋側で雨。関東では曇り。その他は高気圧に覆われ概ね晴れ。沖縄~九州は厳しい暑さ。台風第16号は南シナ海を西に進む。



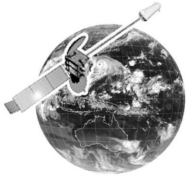
28日(月)紀伊半島で大雨
暖かく湿った空気が流れ込み紀伊半島で猛烈な雨。三重県熊野新鹿で92 mm/1h、日降水量350 mm。北日本は低気圧の影響で雨。台風第16号は引き続き南シナ海を西に進む。



29日(火)台風第17号発生
低気圧や前線の影響で全国的に雨や曇り。北日本は高気圧に覆われて夜には晴れ。湿った空気が流れ込み高知県清水で62 mm/1h。カロリン諸島で台風第17号発生。

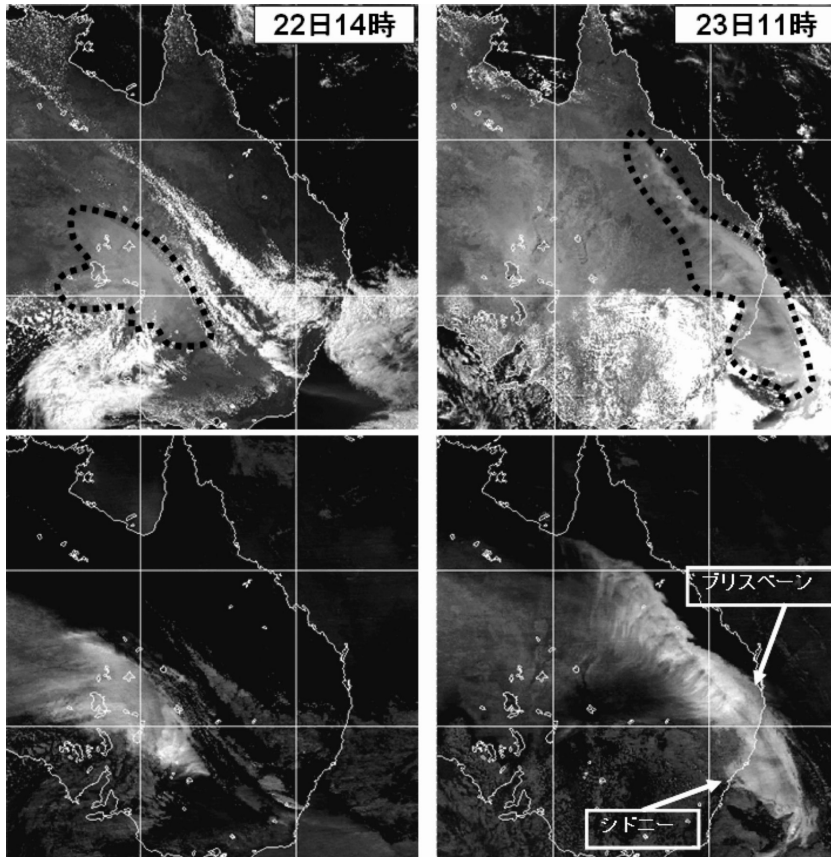


30日(水)M7.5以上の地震相次ぐ
東北部と北海道は晴れ。その他は雨や曇り。前線近傍の鹿児島県阿久根で67 mm/1h。サモア諸島とスマトラ南部でM7.5以上の大地震。台風第16号は熱帯低気圧へ。



今月のひまわり画像—2009年9月

オーストラリア東部を襲った砂塵嵐



第1図 2009年9月22日～23日のオーストラリア東部の可視画像（上段）と赤外差分画像（下段）時刻は日本時間。

9月22～23日にかけて、オーストラリアの東部では、内陸部の砂漠で発生した砂塵嵐に見舞われた。第1図は、この時の可視画像と赤外差分画像（赤外線領域の波長 $11\mu\text{m}$ 帯と $12\mu\text{m}$ 帯で観測したそれぞれの輝度温度の差を画像化）である。大気中に舞い上がった砂塵の領域が、可視画像では点線内の灰色部分、赤外差分画像では白色部分として確認できる。大気中の砂塵は、粒子に SiO_2 （石英）が多く含まれている場合、火山灰や黄砂と同様に、2波長帯間における赤外線の吸収の差によって、赤外差分画像では白く画像化される。このため、この赤外差分画像を利用して、大規模な砂塵嵐の動向を監視することができる。また、砂塵は大気中を浮遊する粒子の数が多いほど、太陽光の反射・散乱が多くなり、可視画像でも明瞭に識別できるようになる。今回の砂塵嵐も可視画像での識別が

容易なほど濃密なものであった。

第1図によると、内陸部で舞い上がった砂塵は、その領域を南北に広げながら、上空の風（気象庁全球モデルのGPVデータ等から、概ね700 hPa付近の高度と推察される）に乗って東へ移動し、半日～1日後には東海岸の都市シドニーやブリスベーンにまで達していることがわかる。シドニーとブリスベーンの各空港では、砂塵嵐のため卓越視程（見通せる距離）がそれぞれ400 m（23日5時頃）、200 m（同日11時過ぎ）程度まで低下した。報道によると、今回の砂塵嵐は、オーストラリアでは近年で最も顕著なものであり、陸、海、空の各交通機関に大きな影響を及ぼしたばかりでなく、市民数百人以上が呼吸困難を訴えて病院に運ばれるなど、健康にも被害が及んだ。

（気象庁予報部予報課航空予報室 大野滋規）